

一日だけの展覧会

「芦屋の近代 現代のとりくみ」

―当館コレクションより―

会期…2018年3月25日 日

10時―17時

会場…芦屋市立美術博物館

一般…500(400)円

大高生…300(240)円

中学生以下…無料

※()内は20名以上の団体料金

※高齢者(65歳以上)および身体障がい者手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方ならびにその介護の方は各料金の半額になります。

主催…芦屋市立美術博物館



一日だけの展覧会

「芦屋の近代 現代のとりくみ

ー当館コレクションよりー

当館には、昔と今が詰まっています。様々な時代の、たくさんさんの所蔵品は、大切な、大事な宝物です。そんな宝物に魅了された、角界を代表する四人の現代の目利きが、今、ここに集まります。

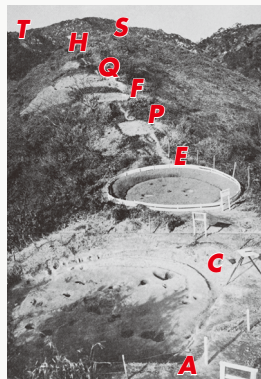
現実をありえない世界へすり替え、また目の前に戻す、ステッチ美術家・伊藤存。

強烈な下から目線で「小さな歴史」のしぶとさを掴み続ける、ウクレレ美術家・伊達伸明。

様々な痕跡やカケラの「物語」を未来へと接着させる、タイル美術家・中村裕太。

描写の後ろで遊び続けて早二〇年、アクロバット小説家・福永信。

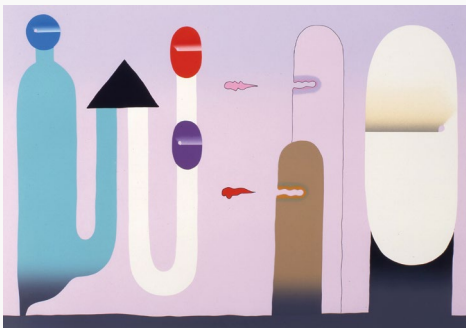
どんな小さな芸術も見逃さない、彼ら四人衆の選定による、一日だけの芦屋市立美術博物館のコレクション展。この日、四人衆は、一日じゅうずっと、ギャラリートークをします。他の美術館ではまず見られない、いくつかのしかけもあります。ぜひ、楽しみにしててください。満員御礼になりますように。



屋根上に建った見つけた集落跡昭和30年代（アルファベットの地区名を示す）



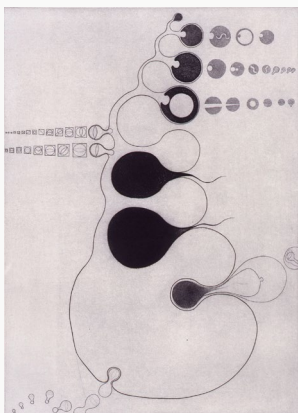
淀井敏夫《牛と女と地中海》1975年 ブロンズ



元永定正《かわばた》1983年 シルクスクリーン、紙



吉原治良《漁夫(仮題)》1929年頃 油彩、布



松谷武判《La Propagation Noir》1967年 エッチング、紙

●関連イベント〈ギャラリートーク〉

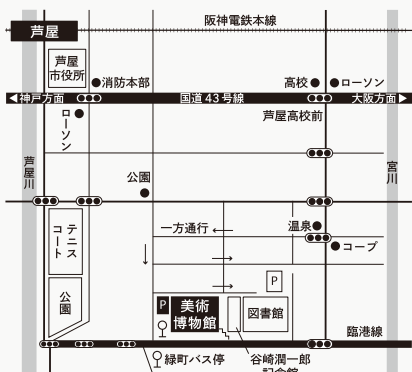
日時…3月25日(日) 10時―17時

講師…伊藤存、伊達伸明、中村裕太、福永信

参加費…無料(ただし要観覧券)

会場…展示室にて

*会場内では展示作品が
随時移動します。ご了承ください。



アクセス

徒歩＝阪神電車芦屋駅から南東へ約15分

阪急バス＝「新浜町」行きまたは「芦屋市総合公園前」行き乗車(31.32.35.36.131系統)、「緑町(美術博物館前)」停留所下車バスのりば＝○阪神電車芦屋駅・南側2番のりば ○阪急芦屋川駅・南側5番のりば ○JR芦屋駅・北側5番のりば
※併設駐車場＝当館利用者は1時間無料(8:00-20:00/30分100円、20:00-8:00/60分100円)

芦屋市立美術博物館

Ashiya City Museum of Art & History

〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町12-25

TEL:0797-38-5432 http://ashiya-museum.jp

伊藤存

「力」

※メッセージ

展示室に掛けられた、すこく小さな一枚の絵画が内に秘めた見えざる力で隣に掛けられた大きな絵画と美術展示業者の力を使得「二メートルは板に押し出し、しまうところがある。そんな不可視の力(遠がこの春の芦屋でぶつかり合うのです。

※略歴

美術作家。京都を拠点に活動。刺繍作品をはじめとして、アニメーションや小さな立体制作にも近年では作品を野ざらして展示することにも(力)を入れている。

一九七七年 大阪府出身 一八五センチ 二〇キロ 得意技…脚門連発

伊達伸明

「楽」

※メッセージ

鑑賞の現場で見る側と作品との間で切り結ばれる虚々実々の駆け引き押し／引き、カミ／スカシ、情動／付度…しかしその攻防は二者間だけのものではないかもしれない。

相対性理論「インスタント」(artist hugaza)の実験をめざします。

※略歴

取り壊される建物の部材を用いてウクレレを制作する「建築物ウクレレ化保存計画」は、学校・一般住宅など通算七三場所も作品化。また各地の地域資源活用型の企画にも十数場所参加している。

「亜炭年古学」(二〇一三・二〇一五／仙台)、「豊中市民会館おくり展」(二〇一四・豊中)、「アートの考古学」(二〇一六／京都)らのゆめ(二〇一七)「新開地」など。

一九六四年 大阪府出身 七二センチ 六九キロ 得意技…肩連かし

中村裕太

「網」

※メッセージ

学生の頃、アルバイトをしていた芦屋の中華料理店には、網が結びつけられた鍋(かり)のオブジェが置かれていました。海に沈められた網を上げようとして、芦屋の近代をじりじりと引き寄せていきます。地元開業意気込んでいます。

※略歴

京都市在住。博覧は、芦屋ゆかりの谷崎潤一郎が「陰翳乱のなかで触れた」篇を手がかりに、大正期の浴衣にみる白色タイルの受容について。以来「民俗と建築にまわる工芸」という視点から陶磁器やタイルなどの芸術工芸と作品制作を行なう。最近では京都・愛知・東京といった場所をはじめ、アバン・ガルドン間でのリサーチや展覧会に取組んでいます。

一九八三年 兵庫県出身 一六九センチ 七〇キロ 得意技…引寄せと張付け

福永信

「体」

※メッセージ

所蔵品を四人でキュレーションをするのがこの企画。だが気をつけなければ他人の裡で相撲を取ることにも、また当日は立ち上りはなしだから今から体を鍛えておかなければ、打ち上げでは鍋を食べよう！と真剣に話し合っている。具はなんだろう。

※略歴

作品にアクリル顔料「夜」(二〇一〇)、「ロイヤルペンペン」(二〇一〇)、「星屋」(二〇一〇)、「地球」(二〇一〇)、「(二〇一〇)」「小説の家」(編著)「二〇一〇」など。

一九七二年 東京都出身 一六〇センチ 六〇グラム 得意技…土踏まず